

科目名称：	社会的養護Ⅱ	
担当者名：	中村 明成	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
社会的養護という概念は、狭義として「児童養護」を示す場合が多いと考えられますが、保育者として、様々な実習での「子ども（利用者）」とのかかわりを通して、「福祉専門職」としての役割や社会的意義を深める必要があります。社会的養護Ⅱでは、実際にかかわった事例を大切にしながら、課題を整理し、実践者としての姿勢を考えていきたいと思います。		
授業の達成目標・到達目標		
実習での体験をもとに、カンファレンスを通じて記録を整理していく中で、「子ども（利用者）」「保護者及び家庭」「保育者」それぞれの課題を整理し、かかわりの振り返りの中から「実践者」としての対応する力をより柔軟に考えられるようにしながら「保育観」「子ども観」「人間観」を醸成できるようにしていく。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP (2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		○
DP (3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)	60		40		100
幼児教育DP (3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設支援員 社会福祉士 ケアマネージャー	《経験年数1》 11年10か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実習記録を見直し、実際の事例を振り返る	事例を振り返り、自分自身のかかわりを見直して、次の実践につなげられる	事例を振り返り、自分自身のかかわりをみなすことができる	事例を振り返り、記録に整理できる	事例を振り返り、記録を整理することが不十分である
参考図書読後レポート	参考図書をよく読みこんで、自分の課題として表現できる	参考図書をよく読みこんで表現できる	参考図書を読んでレポートにできる	参考図書の読み込みが不十分である
まとめ	社会的養護や支援が必要な子どもについて、理解し今後の実習などに活かせる	社会的養護や支援が必要な子どもについて、よく理解できている	社会的養護や支援が必要な子どもについて、意識している	社会的養護や支援が必要な子どもについての理解が不十分である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 社会的養護の基礎（意義と必要性）	前期の授業で学習したことを振り返る	40分
第2回 実習での事例を振り返る	実習記録を見直す	30分
第3回 事例について記録にまとめる	実習記録を見直す	30分
第4回 事例について記録にまとめる	実習記録を見直す	30分
第5回 事例についてのカンファレンス	事例記録の見直し	30分
第6回 事例についてのカンファレンス	事例記録の見直し	30分
第7回 事例についてのカンファレンス	事例記録の見直し	30分
第8回 事例検討と発表	他の学生の記録の見直し	30分
第9回 事例検討と発表	他の学生の記録の見直し	30分
第10回 事例検討と発表	他の学生の記録の見直し	60分
第11回 課題図書の読み込み	課題図書読み込み	45分
第12回 課題図書の読み込み	課題図書読み込み	45分
第13回 課題図書の読書会	課題図書読み込み	45分
第14回 課題図書の読書会	課題図書読み込み	45分
第15回 講義のまとめ（社会的養護や支援が必要な子どもの理解と対応）	自分の事例をまとめておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、課題図書の読み込みと読後レポートの作成することになる。実習後の「特別支援」が必要な子どもについてもレポートを作成する。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

その他は授業内レポートで40%

課題に対するフィードバック

授業で作成するレポートは、添削し評価し返却する。

教科書・参考書

テキスト 適宜資料を配布する
参考書・参考資料等
重い障害を生きるということ 高谷清 岩波新書 読書会のあと、読後レポートの課題として使います